

漁業士会の活動支援（海藻等の増殖・利用体験）

水産技術開発センター 企画・栽培養殖部

【背景・目的】

県内には、知事から認定された漁業士で構成される漁業士会があり、全体組織である県漁業士会と7つの地区漁業士会がある。このうち鹿児島湾の西岸と湾奥部を対象地区とする鹿児島地区漁業士会では、これまで魚食普及を目的とした保育園等を対象とする食育支援活動を行ってきた。

今年度は同会で企画したアマモ植付体験やワカメ収穫体験について、それら企画実施に向けた計画検討や実施について支援を行い、その活動推進を図った。

【普及の内容・特徴】

1 アマモ植え付け体験に向けた取組

(1) アマモ花枝採取

令和4年5月、漁業士メンバーらと鹿児島市与次郎長水路においてアマモ花枝を採取し、熟成後に種子を得るため、花枝をタマネギ袋に収容し漁港内に垂下し養生した。

(2) アマモ苗育成

令和4年9月、熟成し選別された種子を、生分解性袋を装填したビニールポット100個の培養土に3粒ずつ播種し苗づくりを行った。水産技術開発センター内の汲み上げ海水を掛け流したが、9月後半以降も29～30℃の高水温が続き、発芽の遅れが懸念されたことから、海水冷却装置で26℃に降温し、発芽を促した。発芽率は約25%であった。

(3) 植付け体験イベント(令和4年10月22日)

鹿児島市の環境未来館企画の講座と連動して参加者を募ったところ、定員を上回る応募があり、当日は13組42人が参加した。鹿児島市磯海水浴場において、アマモに関連付けて海洋環境やブルーカーボン等について漁業士が講義した後、育成したアマモ苗を移植体験してもらうとともに、地びき網を曳いて採捕された魚の種名や生態について説明した。

2 ワカメ収穫・加工体験に向けた取組

(1) ワカメ種糸づくり

5月、水産技術開発センター地先で採取したワカメ雌株を水槽に収容し、同時に浸漬した種糸枠に放出した遊走子を付着させた。種糸枠は大型タンク内に吊り下げ、汲み上げ海水を掛け流した。6月下旬以降、水温が26℃を超えると夏眠のため寒冷紗で遮光し、さらに8～9月は水温が30℃を上回らないよう冷却装置で温度調整した。(期間中、随時検鏡し配偶体から孢子体への成長を確認)

(2) 仮沖出し・種糸巻き付け

11月下旬、孢子体まで成長した種糸を沖出し、幼芽の出現を確認後、12月上旬に幹ロープに巻き付けて海面展開しワカメ藻体の伸長を期した。

(3) 収穫・加工体験イベント(令和5年3月4日)

鹿児島市の環境未来館企画の講座と連動して参加者を募ったところ、7組18人応募があった。

漁業士とともに、漁場環境保全やブルーカーボン、ワカメの生活史等の講話のほか、成長したワカメロープを会場に持ち込み、模擬収穫をさせた後、塩蔵ワカメづくりとワカメしゃぶしゃぶの試食を体験してもらった。

【成果・活用】

鹿児島地区漁業士会では、令和元年度から保育園等での食育支援活動により、園児達への魚食普及のほか、保護者を対象とした魚さばき体験指導など水産物の消費拡大に取り組んできたが、当該の海藻(草)を用いた体験活動を加えることにより、活動内容の拡充が図られた。これらの取組は、鹿児島市の環境未来館企画の講座と連動しており同館へは次年度以降の開催に関する要望や問合せが来ており、今後の継続性が高いものとなっている。

また、漁業士会のアマモへの取組が評価され、鹿児島市の環境部局からは、カーボンオフセット関連事業への参画について打診を受けており、次年度以降は、ブルーカーボンの吸収・貯留に向けた取組についても検討することとなった。



アマモ花枝採取(種子)



ポットにアマモ種子を播種(発芽)



アマモ植え付け体験



ワカメ種系の養生



成長したワカメ



ワカメ収穫の模擬体験